

# 下榎交流センターだより

編集 日野町下榎交流センター

〒 689-4526 日野町下榎 157 番地 1

電話：72-1191 (FAX 兼)

E-mail : rinpokan@town.tottori-hino.lg.jp

## 「第 48 回日野町解放文化祭」開催



【オープニングの吹奏楽部による演奏】

11月8日、9日の2日間、下榎交流センターを会場に「第 48 回日野町解放文化祭」を開催しました。

初日の8日は、オープニングセレモニーとして日野学園吹奏楽部が演奏を行いました。続いて行った開会行事では、安達教育長、飛田解放文化祭実行委員長、柴田下榎自治会長があいさつを行い、2日間にわたる解放文化祭がスタートしました。

10時からは、「ここからの一步～多様性をあたりまえに～」との演題で、細田美緒乃さんによる講演会を行いました。講師の細田美緒乃さんは、12歳の時にすべての髪を失い将来への希望を持てず下を向いて生活をしていたつらかった時期のことと、その後自分を取り戻し自分らしく生活をしてきたことについて、写真を織り交ぜながらお話をしてくださいました。講演を聴いている人の中には涙を抑えながら聴いている方や講演者の言葉にうなずきながら聴いている方がありました。講演会後には、「とても良い話を聞かせてもらった」「良い講演会で、来て良かったわ」といった声をたくさんいただきました。



【講師：細田美緒乃さん】

一方、会場の外では、日野高校の野菜や五平餅などの販売が行われ、非常にぎわいました。今回初めて行った焼きそばや豚汁、ポン菓子の提供販売も大盛況で、あっという間に完売となりました。また、これと同じく今回初めて行った路上の落書きアートも、子どもたちに好評で、チョークを使い思い思いの絵や文字を描いて



【大盛況の焼きそば販売】

楽しんでいました。午後からのボッチャ体験では、1チーム2人で4つのチームを作り、総当たり戦を行い、得点を多く取った上位2チームで決勝戦を行いました。仲間の声援を受けて球を投げ、その落ち方で、飛び跳ねたりキャーキャーといった声を響かせたりする場面が多く見られるなど、楽しんでる様子が伺えました。

2日目、楽しみにしていたメインイベントである餅つき大会の杵つきは朝からの雨でできませんでした。そのため、餅つき機をフル活用して餅をつき、地区内の方やPTAの方に協力をしていただきお餅を完成させました。昨年に続き「きな粉」と「汁物」の2種類を準備、「美味しい！美味しい！」との声が響き、おかわりの連発も多くみられました。

また今回は、下榎自治会の協力により、袋詰めしたお餅とお茶の販売を行い、その収益を町内の社会福祉施設に寄贈しました。13時には、子どもたちが楽しみにしていた西村亮佑さんのバルーンアートが始まりました。子どもだけでなく、大人も一緒に楽しみ、会場が活気にあふれていました。

今年、来場いただいた方は、昨年より50人以上少なくなりました。雨の影響と他のイベントと重なったことがその要因かもしれません。そのような中でも雨の中来館してくれたみなさん、協力をいただいた各種団体・学校のみなさん、賛同いただいた農家のみなさんなど、多くの方々にお世話になりました。今年も無事に、またにぎやかに2日間の解放文化祭を終えることができたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

### お知らせ

### ～第 49 回 新春囲碁将棋大会～

◆日 時：令和8年1月10日（土）9:00～

◆場 所：老人憩の家（下榎）

※たくさんのお申込みお待ちしています。

# 農業委員会だより No.115

## 「日野町農業振興施策に関する意見書」を提出

10月30日付で、町長に「日野町農業振興施策に関する意見書」を提出しました。

### ・「日野町農業振興施策に関する意見書」の一部抜粋

令和7年3月14日策定の地域計画で明らかとなったとおり、令和6年度現在の耕作面積約340haのうち、守るべきとした農地（町民が守りたい農地）は約290haあり、そのうち10年後の耕作者が特定できている農地は約90ha、特定できていない農地が約200haあるという結果でした。

この結果からもわかるとおり、担い手不足が一番の課題で、今後、空いてくる農地約200haの受け手を待たなしで育て始めなければ、耕作放棄地となり、地域景観が悪化することは、容易に想像ができます。

農業委員会の主な役割である農地利用の最適化では、耕作者を斡旋しようにも、受け手がなく、日野町農林振興公社にソバ栽培の業務委託を斡旋できれば良い方で、近年では、斡旋できず地元集落で対応していただいている状況にあり、農業委員会としても、非常に心苦しい状況にあります。

また、農地利用の在り方としても、水稻栽培が可能な農地において、担い手不足のため、ソバ栽培等の補助金依存度の高い栽培品目を行うことは、最適ではなく次善の策と言えます。

このような情勢を鑑み、喫緊の課題である担い手確保、育成に焦点を絞り、専業農家、兼業農家、非農家及び農林振興公社が連携した担い手の確保育成体制を構築していくよう政策提言を行うものといたします。

未曾有の人口減少が進む中、全ての農地を守ることは、困難ですが、その地域に住む人がある限り、地域景観を保持すべきであり、町施策であるコンパクトタウン構想に基づく戦略的縮減と再構築を図るための施策を講じる必要があります。持続可能な農業を将来に引き継いでいく必要があります。

なお、意見書全文は、日野町公式ホームページで公表しています。

## 町長、議会総務経済常任委員会と意見交換

11月10日、町長と農業振興施策に関する意見交換を行いました。

内容としては、喫緊の課題である担い手確保・育成に焦点を絞り、政策提言を行いました。

町長からは、「担い手の確保育成については、町単独での施策では、効果が薄いため、関係機関と連携した取り組みを進めること。日野町農林振興公社の職員について、求人を出しているが、なかなか応募がないことを受け、待遇改善を含め、検討が必要である」との意見が出されました。

また、同日、担い手確保について、町議会総務経済常任委員会と意見交換会を行い、さまざまな視点から意見交換を行いました。

